

令和5年度

三好中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に学習に取り組む態度の育成、授業規律の徹底
- 言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
村上 郁代 (教務主任)	伊藤憲志(校長)久保喜昭(教頭) 尾関典子(1学年主任) 森幸子(2学年主任) 西尾美佳(3学年主任・研修主任)

校長

伊藤 憲志

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組める生徒が多い。 ●一部の生徒は、基礎的・基本的な知識や技能の習得に支援を要する。	・各教科における基礎的・基本的な知識や技能を身につける。 ・学習の過程で習得した知識・技能を、既習事項と関連づけて、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・板書やノート指導、タブレット等ICT機器、各教科の課題を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる。 ・教員の指導力向上のために、オープンクラスウィークを設け、相互に授業参観を行う。 ・朝学習で毎日、英語のリスニング練習や動画視聴を行い、英語のリスニング力向上に努める。	・今年度途中から町内の小中学校に導入された、タブレット内の学習プリント(「みんなの学習クラブ」)を有効活用する場面を増やす。	・タブレット端末を使って、英単語テストや、5教科の反復練習問題などを行い、基礎基本の習得に努めた。 ・オープンクラスウィークを設け、相互に授業参観することで、教員の授業改善や授業力向上につなげることができた。 ・毎朝の英語リスニング練習を続けた結果、各学年ともリスニング力が向上した。	・タブレット端末を使って、朝の学習や小テストなどの基礎的・基本的な反復練習ができるようにする。 ・徳島県学力向上確認プリントを各学年・各教科でさらに有効活用していく。 ・全国学力・学習状況調査や県学力ステップアップテストの問題内容の分析や過去問への取組を計画的に行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ●自分の考えを、根拠を示しながら筋道を立てて説明することに課題がある。	・自他の意見を比較し、考えを深めることができる。 ・根拠や理由を明確にし、自分の考えをまとめ、自分の言葉で相手に伝えることができる。 ・話を聞いて、質問や意見、感想などを即興でやりとりすることができる。	・生徒が興味をもって学習に取り組めるように発問を工夫する。 ・日直の「1分間スピーチ」の書き方を指導し、表現力の向上を図る。 ・グループで話し合ったり、個々の生徒が考えをまとめたりする場面では、ホワイトボードや「まなボード」、タブレット等を活用し、表現がしやすく、意見が活発に交換される工夫をする。	・日直の「1分間スピーチ」や毎日の「清明」の日記の中で、自分の考えを、根拠を示しながら筋道を立てて説明することができるように支援する。	・人権学習の校内研修を各学年1回ずつ行い、授業研究会で、話し合いを活性化させる授業展開や発問について研修をした。 ・話し合い活動や意見交換のために、タブレット端末等のICTやホワイトボード・まなボードなどを効果的・効率的に活用し、ペア学習やグループ学習の機会を適切に設定できた。	・自分の考えを、根拠を示しながら筋道を立てて説明することができるように、教科の指導だけではなく、あらゆる場面で常時指導をしていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業を落ち着いた態度で受けたり、家庭学習に真面目に取り組んだりできる生徒が多い。 ●メディアの使用時間が長く、家庭学習の習慣が身につけていない生徒もいる。 ●学ぶことの意義を自分の生き方と結びつけて理解し、これからの人生を切り拓く意欲をもって取り組めていない生徒がいる。	・家庭学習の時間を確保し、根気よく継続して取り組むことができる。 ・自分の学習状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・授業に真剣に取り組む、わからないことは教師や友達に質問することができる。	・町内統一の「学習の手引き」を活用し、各教科の学習のしかたについて指導する。 ・定期テスト前に、学習計画表を作成し、計画的に学習するよう指導する。 ・CS事業の「放課後質問教室」を月2回開き、主体的に学習に取り組んだり、分からないところを質問したりできる場面を設定する。	・学習の開始時点で、各自が「目標設定」や「目標設定のための工夫」を設定して見直しをもち、学習の終末には「振り返り」をするなど、生徒の自己調整を促すような手立てをする。	・全校で82.4%の生徒が「毎日家庭学習をしている」と答えている。 ・1年生は、入学当初に「学習の手引き」を用いて授業への取組や家庭学習の仕方などについて指導ができた。 ・「インターネットやゲーム、スマホは家族との約束を守って使用している」に否定的に答えた生徒が、全校で30.4%おり、昨年度より増えている。(昨年度21%) ・月2回「放課後質問教室」を開き、生徒が主体的に学習に取り組む場面を設定できた。	・規則正しい生活が送れている生徒を80%以上にする。(今年度70.4%) ・インターネットやゲーム、スマホは家族との約束を守って使用している生徒を80%以上にする。(今年度69.6%)

令和5年度 学力向上ロードマップ

